

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第21週 (5/21-5/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		21週	20週	19週	18週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	5/21-5/27	5/14-5/20	5/7-5/13	4/30-5/6	5/14-5/20
			21週	20週	19週	18週	20週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	2	1	27
	咽頭結膜熱	○	7	5	1	0	81
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	70	66	47	19	472
	感染性胃腸炎	↓	153	157	113	43	689
	水痘	○	27	4	20	2	54
	手足口病		1	2	0	0	20
	伝染性紅斑		0	2	1	0	50
	突発性発しん		15	14	19	9	85
	ヘルパンギーナ		1	2	3	0	22
	流行性耳下腺炎		1	4	1	2	17
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		5	2	5	5	51
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0
	流行性角結膜炎	○	4	1	1	0	19
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	3

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	E型肝炎	男性	40歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	60歳代	画像診断	百日咳	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	40歳代	抗体の検出(抗PT IgG)
結核	男性	90歳代	病原体の分離・同定	-	-	-	-

・第21週は、結核4件(75)、E型肝炎1件(2)、百日咳2件(22)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

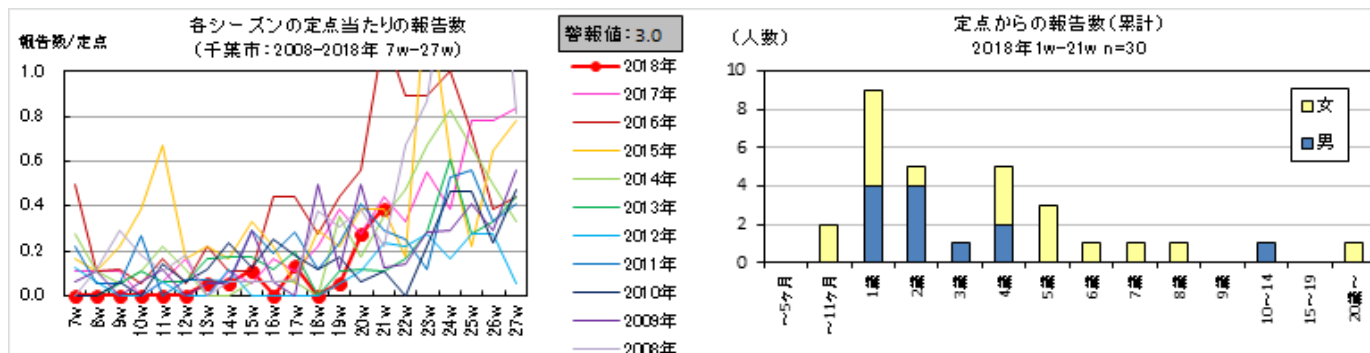
定点当たり報告数 第21週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.89となった。過去10年の同時期と比べると多め。
 ＜感染性胃腸炎＞前週より若干減少し8.50となった。過去10年の同時期と比べると多め。
 ＜水痘＞前週より増加し1.50となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。
 ＜流行性角結膜炎＞前週より増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

■ トピック ■

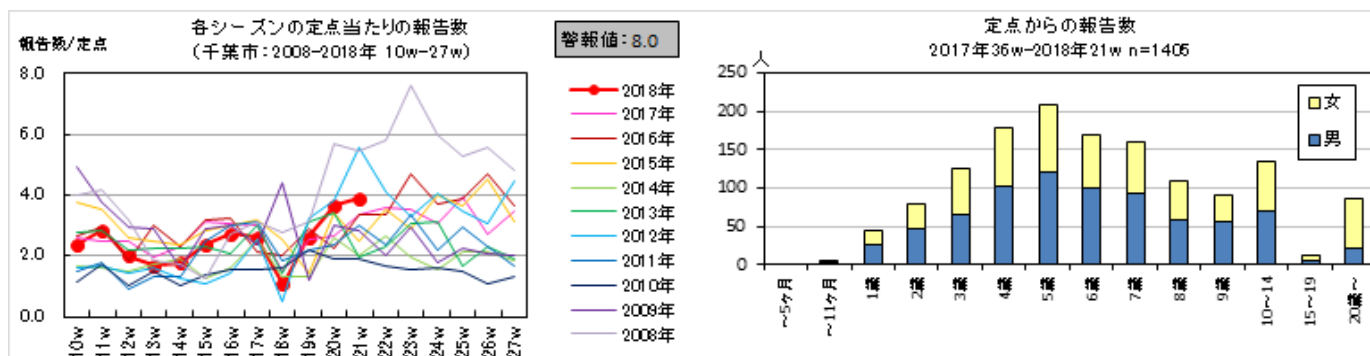
<咽頭結膜熱>

全国レベルの第20週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では佐賀県、新潟県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第21週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区及び若葉区(共に1.0/定点)で最多で、稲毛区で5歳、8歳及び10歳代前半、若葉区で1歳及び2歳で発生報告がありました。2018年第1週から第21週までの累積報告数(n=30)によると、性別では男性が40.0%(12名)、女性が60.0%(18名)で、年齢階級別では1歳(30.0%:9名)、2歳及び4歳(共に16.7%:5名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第20週は、過去10年の同時期と比べると多い状況となっています。都道府県別では新潟県、福井県、埼玉県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第21週は前週より増加し3.89となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(4.6/定点)で最多で、同区の4歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第21週までの累積報告数(n=1405)によると、性別では男性が54.6%(768名)、女性が45.4%(637名)で、年齢階級別では5歳(14.8%:208名)、4歳(12.7%:179名)、6歳(12.1%:170名)の順で多くなっています。



<水痘>

全国レベルの第20週は、過去10年の同時期と比べると少ない状況となっています。都道府県別では埼玉県、熊本県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第21週は前週より増加し1.50となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(6.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第21週までの累積報告数(n=122)によると、性別では男性が61.5%(75名)、女性が38.5%(47名)で、年代当たりの年齢階級別では7歳(25.4%:31名)、6歳(13.1%:16名)、4歳及び5歳(共に9.8%:12名)の順で多くなっています。

